

2017 Annual Report

一般社団法人 Colabo | 2017年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
中高生世代を中心とする
女子を支える活動を行っています。



私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、教員ともうまくいかず、街を彷徨っていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、未成年の少女たちの性売買への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な

仕事に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

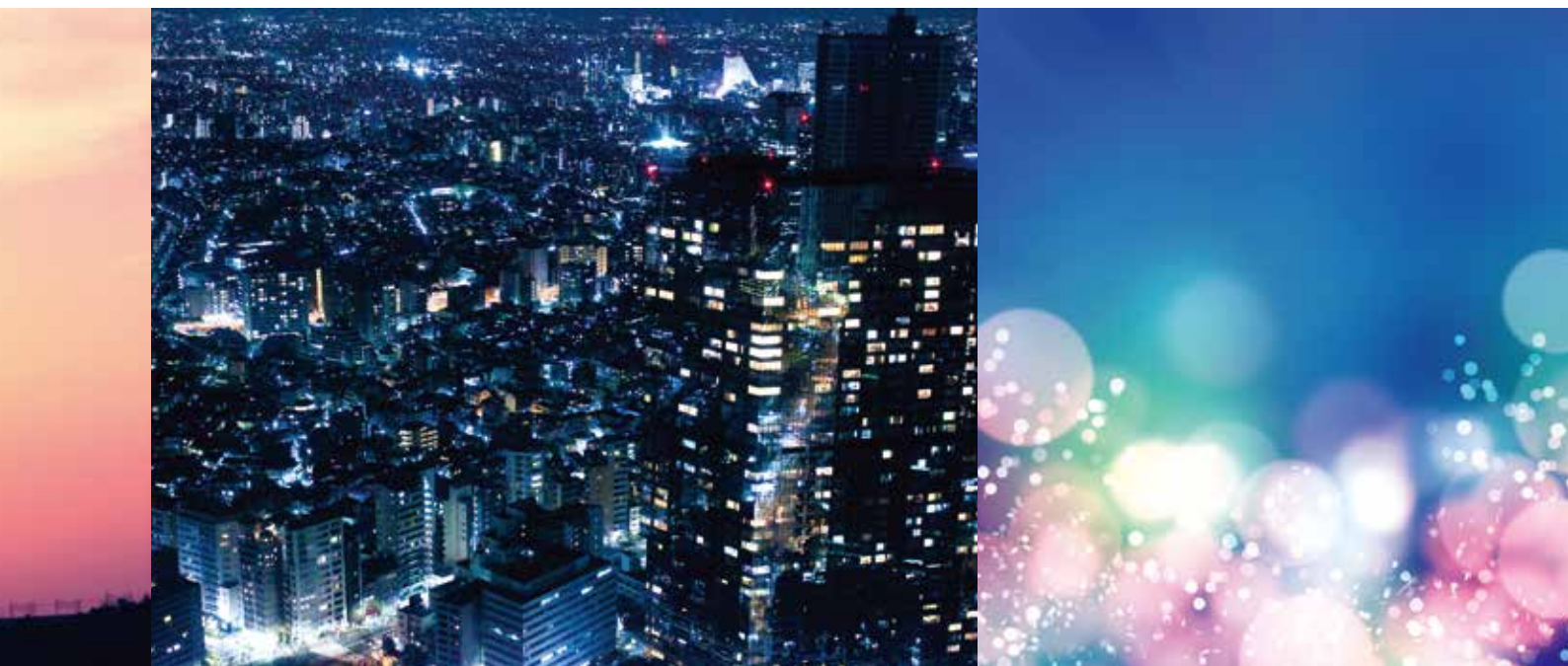
それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少女少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前在日常」です。

私たちは、会える少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

2018年5月
一般社団法人Colabo
代表 仁藤夢乃





2017年度 活動概要

■相談事業

・相談者数	184名
・面談	350回
・同行支援	104回
・他機関連携	136件

■食事・物品提供

・食事	465食
・物品	193件
・「難民高校生」	96冊

■保護・宿泊支援

・一時シェルター	
利用者・利用件数	34名、283件
・中長期シェルター（一時保護利用）	
利用者・宿泊日数	7名、77日

■自立支援

・自立支援シェアハウス（中長期シェルター）	
入居者	7名
・就労支援	104回

■サポートグループ「Tsubomi」の活動

・参加者・活動回数	37名、79回
-----------	---------

■啓発事業

・講演会	47回、6303名参加
・街歩き研修	29回、240名参加
・アウトリーチ支援者養成講座	1回、7名参加

目次

■私たちの想い	1
■2017年度活動概要	2
■夜間巡回・相談事業	3
相談を受けた少女への対応	
■食事・物品提供	5
■一時シェルター	6
■自立支援シェアハウス・就労支援	5-6
■サポートグループ「Tsubomi」	7
企画展「私たちは『買われた』展」	
■啓発事業	9
夜の街歩きスタディーツアー	
■メディア掲載	11
■会計報告	12
■会員・寄付・物品応援	13
■ご支援のお願い	14

夜間巡回・相談事業

深夜の街を巡回し、帰らずにいる少女に声をかけ、繋がっています。
また、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

夜間巡回

12

回

相談者数

184

名

相談者の属性と現状

相談者数 ————— 184名

・本人からの相談 ————— 129名(うち、新規86名、男子3名)

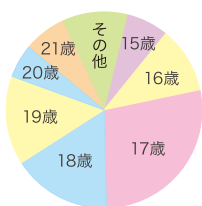
・本人以外からの相談 — 55名(支援者24件、教員12件、
友人8件、家族7件、その他4件)



■年齢(本人からの相談)

12歳 ——— 1名
13歳 ——— 1名
14歳 ——— 3名
15歳 ——— 9名
16歳 ——— 14名
17歳 ——— 36名
18歳 ——— 21名
19歳 ——— 19名
20歳 ——— 7名
21歳 ——— 9名

22歳 ——— 4名
23歳 ——— 2名
24歳 ——— 3名



■出会ったきっかけ

・友人の紹介 ————— 39名
・支援者・知人の紹介 ——— 30名
・SNSを通して ————— 26名
・授業・講演を通して ——— 21名
・メディアを通して ————— 17名
・HPをみて ————— 9名
・仁藤の著書を読んで ——— 8名
・「私たちは『買われた』展」を通して — 5名
・街で声をかけられて ——— 4名

相談は全国から寄せられ、東京、神奈川、千葉、埼玉を中心に北海道、宮城、茨城、群馬、長野、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、岡山、和歌山、広島、香川、高知、福岡、長崎、鹿児島、沖縄などで少女たちと出会い、関わっています。

■相談内容

家庭のこと

276
件

・家族関係 ————— 61件
・虐待 ————— 58件
・家に帰りたくない ——— 39件
・居所なし ————— 35件
・生活困窮 ————— 33件
・家を出たい ————— 26件
・家出 ————— 17件
・子育てについて ——— 4件
・親の自死 ————— 3件

学校のこと

79
件

・高校中退 ————— 29件
・進路 ————— 21件
・友人関係 ————— 13件
・不登校 ————— 11件
・いじめ ————— 4件
・教員について ——— 1件

性のこと

177
件

・性被害 ————— 54件
・性売買 ————— 45件
・風俗店や性売買斡旋組織から
抜けたい ————— 20件
・JKビジネス ————— 16件
・恋人からのDV ————— 15件
・性感染症 ————— 14件
・妊娠 ————— 9件
・セクシャルティ ——— 4件

その他

163
件

・就労相談 ————— 38件
・仕事について ————— 18件
・公的機関の対応について 14件
・借金 ————— 9件
・精神疾患 ————— 28件
・自傷行為 ————— 17件
・死にたい ————— 13件
・病院に行きたいが行けない 9件
・薬物依存 ————— 4件
・発達障害 ————— 8件
・知的障害 ————— 4件

家族からの暴力やネグレクトなど、虐待に関する相談が58件。身体的虐待36件、精神的虐待39件、性的虐待11件、ネグレクト23件、過干渉10件、経済的虐待11件とその内容はさまざまです。中でも、児童福祉などの公的支援につながった経験を持ちながら、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いが続いており、公的機関での不適切な対応に関する相談も14件ありました。相談者に「児童相談所と関わったことはある？」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子を

見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね？」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていないながらも虐待を受け、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や修学旅行費が払えないなどの理由から性売買に関わっていた中高生との出会いや、「親の都合で学校に行かせてもらえない」、親に怒られるから「病院に行けない」という相談や「ガスや電気が止まっている」「親が家に帰ってこなくなった」などの相談もありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと出会っています。安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安と付き合いながら生きていかなければならないことも多く、一時的、緊急的な支援だけではなく、医療や福祉の専門家と連携しながら、中長期的なかかわりや暮らしづくりを支える活動の必要性を感じています。しかし、不安定な状態であればあるほど、受け入れ先や連携できる支援機関や病院が見つからないことが多く、受け皿が少ない現実と直面しています。

少女たちの伴走者に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。困っている人の一番の困りごとは、「助けて」と言えないこと。「あなたはどうしたい？」と問われても、それがわからないことです。混乱した生活の中、落ち着いて考えられる環境や、一緒にものごとを整理してくれる人との信頼できる関係性や体験があって初めて、自分の状況に向き合うことができます。私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に頼れる関係を築きたいと考えています。半年以上密に関わって初めて、性的虐待の被害にあっていることを話してくれる人もいます。ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

相談を受けた少女への対応

■面談：350回

- ・本人との面談 ————— 308回
- ・その他関係者との面談 — 42回



■同行支援：104回

- ・家庭訪問 ————— 18回
- ・病院 ————— 16回
- ・役所 ————— 12回
- ・学校 ————— 10回
- ・弁護士相談 ————— 9回
- ・児童相談所 ————— 8回
- ・施設訪問(児童養護施設、母子生活支援施設、婦人保護施設等) 7回
- ・各種手続き・買い物 — 7回
- ・里親家庭 ————— 3回
- ・警察 ————— 3回
- ・引っ越し ————— 3回
- ・職場 ————— 7回
- ・その他機関への相談 — 1回

■他機関連携：136件

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| ■公的機関 ————— 40件 | ・自立援助ホーム ——— 2件 |
| ・学校 ————— 16件 | ・児童養護施設 ————— 3件 |
| ・児童相談所 ————— 12件 | ・母子生活支援施設 ——— 1件 |
| ・役所 ————— 8件 | ・婦人保護施設 ————— 1件 |
| ・警察 ————— 3件 | ・その他支援団体
(難民支援団体等) ——— 3件 |
| ・保護観察所 ————— 1件 | ■専門家 ————— 44件 |
| ■他支援団体 ————— 41件 | ・弁護士 ————— 29件 |
| ・子ども支援団体 ——— 10件 | ・里親 ————— 2件 |
| ・学習支援団体 ————— 8件 | ・病院 ————— 7件 |
| ・性暴力被害者支援団体 5件 | ・その他専門家
(大学教授、医師などの個人) 6件 |
| ・子どもシェルター ——— 4件 | ■企業 ————— 11件 |
| ・女性シェルター ————— 2件 | |
| ・宿所提供施設 ————— 2件 | |

■同行支援から見てきたこと

必要に応じて家庭や警察、病院、児童相談所等への同行支援を行っています。特に、性売買や家出などの渦中にいる少女たちが公的支援を受けることに高いハードルを感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、問題行動があるからと公的な支援機関での受け入れを拒否されてしまうことがあります。

例えば、性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に相談に行ったら

「事件が起きた地元に今すぐ自費で帰って、そちらで被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で性売買に関わり延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、「売春をやめたい。家にいたくない」と保護を求めた高校生に児童相談所が性依存症の自助グループを紹介し、家に帰したこともありました。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や教育、専門的なケア

などです。

相談者の状況によって、一時的な対応でいったん問題が解決することもあるかもしれませんが、中長期的な支援が必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあつたりする場合では、家探しから、生活に関する相談やトラブルへの対応、大家への挨拶、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、子育てに関するアドバイスなど、生活全般を見守っています。

食事・物品提供

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。十分に食事を取ることができていない人や、孤食を続けている人がおなかを満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。

食事提供

465

食

衣類・物品提供

193

件

「難民高校生」

96

冊

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくあります。



その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、そんな少女にまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくっています。

鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない、誰かが料理している所を見たことがないという人もいます。ある時

「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。

彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。「家に食べ物が何もない」と連絡があり、生活困窮家庭に食料を届けることや、児童養護施設を退所した人、家族が頼れない状況にある全国各地の少女たちへの食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに



うになっていて、翌日の食事や冷凍保存用として、また家族や恋人に持ち帰る人もいます。

食事の場は「相談する」ことへのハードルを下げることもつながります。困

応援者の方からいただいた衣類、文具、生活用品、生活用品などを少女たちに贈っています。

出会った中高生や、少年院で講話を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。



「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「向き合ってくれる大人はいない」という想いが込められています。彼女たちに必要なのは特別な支援ではなく、当たり前の日常です。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談できる関係性、彼女たちがいつでも戻ってこられるホームの1つとなれればと活動しています。

自立支援シェアハウス・就労支援

自立支援シェアハウスとして運営する中長期シェルターでの生活支援や、就労支援を行っています。

稼働日数

365

日

入居者

5名

退所者

3名

シェアハウス第一

稼働日数

210

日

入居者

2名

退所者

0名

シェアハウス第二

■自立支援シェアハウス（中長期シェルター）



中長期シェルター2箇所を「自立を目指す20歳前後の女子のためのシェアハウス」として運営しています。各家には、鍵付きの個室が3部屋とリビング

やキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの三か月は家賃無料（それ以降は月額利用

料3万円～ですが、状況に応じて相談）。家具家電あり、お米食べ放題。

自主性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで利用者たちと決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートし、一緒に自立のための計画を立てます。管理者は常

駐しませんが、地域の方にも協力していただきながら、スタッフがすぐに駆けつけられる体制をとっています。ここで生活する間に、生活スキルを身に付け、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなどの自立を目指します。



一時シェルター

緊急時の保護、宿泊支援

安心して過ごせる場所がない少女が一時的に過ごすことのできる場所として一時シェルターを運営しています。利用が数日に渡る場合は、中長期シェルターの一時保護利用を行いました。

体を休め、落ち着いて考えられる場所を

安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくるのは体目的の男の人だけだった。そういう人



しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の

団体設立時から、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていましたが、複数のスタッフで少女たちを見守れる、少女たちが気軽に立ち寄れる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人の他、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる

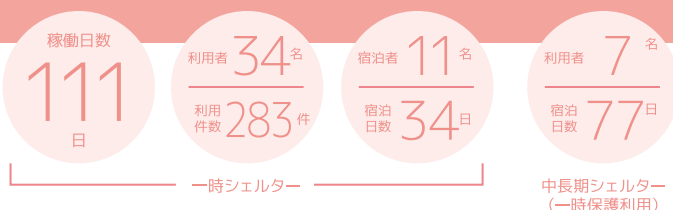
場所がない」という人や、家出し見知らぬ人の家を転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所として運営しています。

虐待や性暴力からの保護だけでなく、「今日は母親の彼氏が来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。



必要に応じて、弁護士や医師、児童福祉などの専門家と連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中

には、里親のもとで生活をはじめたり、自立援助ホームに入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、未だ安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、自立を目指す10代後半～20代前半の女子のためのシェアハウスを始め、2017年度にはみなさんのご寄付で物件を購入し、3部屋増設することができました。



就労支援

2017年度は就労相談は38件、在職中の仕事についての相談が18件、進路に関する相談が21件ありました。就労を目指す少女たちに、資格取得のための研修や制度、求人に関する情報提供や、面接の練習、履歴書の書き方講座を行ったり、就労体験や職場見学

の機会をつくり、同行したりしました。Colaboと繋がりのある企業等と連携し、実際に就労に至ったケースも11件ありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。



104回

- 情報提供 41回
- 就労体験 26回
- 研修 9回
- 面接練習 8回
- 履歴書の書き方講座 7回
- 職場見学 6回
- 仕事紹介 5回
- 退職手続き 2回

サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

つながり、主体となって活動する

10代の少女たちが共に過ごす場をつくり、同じように悩んできた人たちと出会うことで自分の状況を整理したり、向き合ったりするきっかけとなっています。普段の関係性の中では話にくいことも安心して話せる場所。「売春をやめたいけれど自信がない」という15歳の少女に、他の少女がアドバイスをしていることや、スタッフには言いにくいことを打ち明けるような関係性も生まれています。

合宿や夏祭りなどイベントの他、誕生日や卒業・就職などのお祝いを共にしたり、児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」など、経験を伝える活動もしています。

- 季節のイベント：誕生日会、入学・卒業・就職祝い、お花見、レインボープライドへの参加、クリスマス会、遠足、イルミネーション鑑賞
- 研修・教室：料理、アロマ、ネイル教室、学習会
- ものづくり：アクセサリー制作
- 出店：バザー、夏祭り
- 伝える活動：企画展の開催、国連や米国国務省への調査協力
- 体験活動：映画鑑賞、工場見学、職場見学・体験、ボランティア、ヘアカット
- 合宿：夏合宿（7月夏祭り）、秋合宿（9月沖縄平和学習）、年越し合宿（12～1月）、新春合宿（1月茨城県にて）

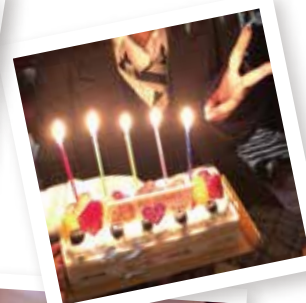
延べ参加人数
215名

参加者

37
名

活動件数

79
回



いま考えてること

(17歳・Mさん)

自分の家族が兄弟が多くて、ままとばばわいつも喧嘩ばっか。うちが生まれた時わまが夜の仕事しとって、小さい時の思い出と言えば託児所の先生と公園行ったり、保育所の先生にだっこしてもらったり、そんな思い出しかない。

小学校に入ってからわいつも先生に反抗して、怒ってもらって家族にもえなかった愛情をもらって愛情を確認してた。

んで小4ん時にタバコ吸いはじめた。それからどんどん悪くなってって、小5ん時に地元で有名な不良な彼氏と付き合い始めた。寂しさを埋めるために家にわ帰らんと、毎日毎日友達や先輩んとこ行っった。友達と何回も援交だってやった。

自分たちのこと必要としてくれる大人がいると勘違いしてた。

自分が不良になったら大人わ冷たい目で見えてきた。でもそれわ間違っない？ って思う、深夜徘徊してたら声掛けてきて、いい歳した大人が中学生と一緒に遊びゅーてきて、自分たちの居場所わ夜しかないって思うやん、実際そーやったし。

んで深夜に徘徊しとったらいるんな人と出会う。ヤクザだって、犯罪者にだって。そんでうちわその人たちと一緒に行動するようになった。その人たちと一緒にじゃない時も何かやらかさな気がすまなくなって、犯罪だっていっぱいした。そのうち簡単に金が入るって聞いて、つつもたせとかもいっぱいした。暴走だって、傷害だって、窃盗だって、詐欺だってした。

そんな生活をしてたから施設に何回も入って、それでもやっぱり家族とわ上手く行かんかったし、かまってもらえんかったから寂しくてまた夜の街に出た。そこでもいろんなことをしていたから、最終的に少年院に入ることになった。そこでわ担任の先生が、一生懸命泣きながらも自分と向き合ってくれて、講話でわうちの気持ちに寄り添ってくれて、自分の過去を見ず知らずのうちに話してくれて、最後に一人一人に握手して、困ったことがあったらいつでも連絡してきてってゅーてくれて、一人ばっかって思っった自分の心を救ってくれた人だっていた。

最近自分わ少年院から出たけど、やっぱりまた前の生活に戻っててもた。

ここで一つ思うことがある。大人わ勝手すぎる。子どもを未成年を利用して最後にわ捨てる。一人じゃあないと思わせて、いいように使って人としてどうかと思う。そりゃうち自身にだって問題がある！ でも自分みたいな子が増えんように一人でも悪い大人に騙されんように、親も大人も、もっと子どもと関わる時間増やして見守ってってほしいって思う。

まだうちわ寂しいし、かまってほしいし、自分のことだけ見てほしいとか思うけど、今わ夜の街だけに自分の居場所があると思わん。

うちわもっと仁藤さんみたいな大人が増えるといいなって思う。

いま考えてることわやっぱり子どもわ愛されたいし、かまってもらいたい。だから夜の街に出てる子がおっても、声かけてホテルに誘ったり、お金で子どもをかうことわやめてほしいと思う。

今悪い大人に騙されとる人も、Colaboに相談とかしてみたらいいと思う。少年院とか施設に行くような子が減ったらいいなってほんま思う。それがうちがいま考えとること。

企画展 「私たちは『買われた』展」

企画目的

中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14～26歳まで28人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。

2017年度は東京(開催日数:1日間、来場者数224名)、沖縄(2日間、800名以上)、静岡(3日間、432名)、大阪(4日間、400名以上)名古屋(3日間363名)、静岡(3日間、95名)で開催し、2016年8月のスタートから計10箇所で開催、約7500名の方にご来場いただきました。

開催数

6

箇所

開催日数

16

日間

来場者数 / 約

3,300

名



各地で企画展を開催したい団体を募集中！
パネル貸し出しについてはお問い合わせください。

売春している中高生について、
どんなイメージを持っていますか？

ある大学の授業で学生たちに
こう投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

- 快楽のため
- 愛情を求めて
- その場限りの考えで
- 遊ぶお金がほしいから
- 優越感に浸るため
- 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
- 正直、そんな人と関わりたくないと思う
- どうしてそこまでやるのか、理解できない

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。もう、そんなことでは傷つかなかった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し
「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」
(16歳・高校生)

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもない、生きられなかった。」(20歳・高校生)

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」(15歳・中学生)

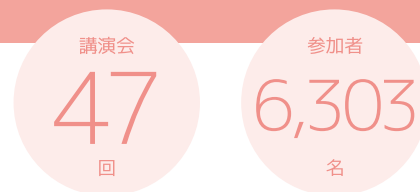


私たちが、いま、ここに
生きていることを知ってほしい。

日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることに気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と人身取引や性虐待などの被害に遭っていることを相談してくれる中高生との出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていた。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った。」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10～60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

- 講演・ワークショップ
- 夜の街歩きスタディーツアー
- アウトリーチ支援者養成講座



講演依頼を受け付けております。
HPからお問合せください！

「最近の若者はわからない…」
「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか？」
一緒に考えてみませんか？

中高生向け



テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、JKビジネスや性について、SNSの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題について等幅広く、中高生の目線に合わせてお話ししています。講演会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にSOSを上げる生徒も少なくありません。

参加者の感想

●定時制高校・高1女子 「友達がJKリフレや夜の仕事をしてて、中学んとき自分もやろうとした。でも裏の世界で働いてる先パイで幸せそうな人もいないし、だからそのために高校も卒業して色んな事を学びたいと思った」

●全日制高校・高2女子 「人って変われるんだと思った。どんなにやんちゃでも、ひきこもり気味でも、人は絶対変われる。今この場所この時間にいられることがどれだけ幸せか考えさせられました」

●特別支援学校・高3男子 「しょうじき、ぼくの人生も楽しいといえず、学校にいくのも仕事に行くのもいやす。ぼくには助けてくれる人はいない。1人なんだって思って、最近は食欲もない、人を信じられない、それでも頑張ってる生きています」

大人向け



今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話しします。テーマは、女性の人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性暴力、インターネットの危険等、さまざまです。困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちに何ができるのか、一緒に考えます。

参加者の感想

●70代男性・電話相談員 「知らない世界が生々しく迫ってきた。知らぬ単語が続出し、戸惑い、不勉強かなと思った。10代の使用ツールなど、詳細を話していただけてよかった。我々の時代とは違う生き難い実態を知り、予想以上の現実に驚いている」

●40代女性・保護者 「女子高生の現状を聞きショックでしたが、その現状を知らなかったこともショックでした。子どもが性の対象として消費されている現状。私にも小学生の娘がいるので、母として、女性として、人として、考えさせられました。自分にできることは何か、じっくり考えたい」

2017年度 講演実績 (一部、敬称略・順不同)

■行政、公的機関

愛知県警察本部 / 逗子市 / 大阪市北区社会福祉協議会 / 倉敷市教育委員会 / 新宿区子ども家庭部男児共同参画課

■政党

自民党「一億総活躍・女性活躍・子育て・幼児教育プロジェクトチーム」

■民間

渋谷区更生保護女性会 / 藤戸田地区保護司会藤支部 / 広島更生保護女性会 / 練馬区社会を明るくす

る運動推進委員会 / NPOまちぽっと & 高木仁三郎市民科学基金 & 難民起業サポートファンド / 仁藤夢乃さん練馬講演会実行委員会 / 私たちは『買われた』展 in Okinawa実行委員会 / 生活クラブ生協愛知 / DV防止サポートネットちば / 山口県母親大会実行委員会 / ラブピースクラブ / 日本軍「慰安婦」問題解決全国行動 / 市川房枝記念会女性と政治センター / 働く女性の会・長野高教組 / 民事介入暴力対策拡大協議会 / 曹洞宗岐阜県宗務所 / チャイルドラインあおもり / 長崎県人間と性教育研究協議会 / 一般社団法人ひ・まわり / 公益財団法人お金をまわそう基金

■教育関係

上智大学 / 埼玉県高等学校社会科教育研究会 / 埼玉県高等学校教職員組合 / 東京都高等学校教職員組合女性部 / 大分県高等学校教職員組合女性部

■学校、少年院 (生徒向け)

和光中学校 / 文京区立茗台中学校 / 湘南学園高校 / 潤徳女子高校 / 大阪府立箕面東高校 / 神奈川県立吉田島高校 / 明治学院大学 / 静岡県立大学 / 一橋大学 / 貴船原少女苑 / 丸亀少女の家

夜の街歩き スタディー ツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。5名以上での申し込みで、好きな日程で調整可能です。

開催数

29
回

参加者数

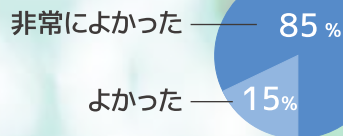
240
名

■参加者

教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

ツアー参加者の満足度

(アンケート回答者96名)



- ・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた — 99%
- ・これまで気づくことのなかった現状を知れた — 94%
- ・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった — 78%



参加者募集中！
詳細はHPへ

参加者の声

今まで知らなかった現状を
自分の目で見ることができました。

同じ国に住んでいても、同じ年でも、環境が違う子たちはたくさんいて、大人に搾取される状況はその子達が望んだものではないことが分かりました。決して他人事ではなく、私にも友達にも起こりうることで、女子高生として危険に気付けたのもよかったです。よくいる大人は、ただそういうことには近づくな、ぐらいにしか説明してくれないので、とてもいい機会でした。

16歳女性 高校生

本で読むだけでは実感が伴わなかったことが、
「すぐそこにある」のだと痛感しました。

普段街で出会っていたにも関わらず、違和感を感じていなかった自分に気づかされました。支配と搾取の構造に気づくことができ、ツアーの経験をもとに周囲の人とも議論ができるようになりました。将来は地域の人々のかかりつけ医として働きたいと思っていますが、子どもたちの悩みや街中の危険にいち早く気がつける医師になれるよう努力したいです。20代男性 学生

ツアー参加後は、すれ違う子どもたちに
自然と目が向くようになりました。

こちらから見つける、こちらから働き掛ける、ということをしてみることで、こんなにも見えてくる景色、感じられる思いが違うのか、と衝撃を受けました。職場で児童相談所職員の募集があり、踏み切れずにいましたが、ツアー後、異動を申請しました。仲間を募りながら行動し、より実りある支援を模索・実行していきます。また、民間の支援者の方と積極的に連携をとるような柔軟な姿勢をもった組織に変えていきます。

30代女性 公務員

アウトリーチ支援者養成講座

街歩きスタディーツアーの参加者を対象に、座学やワークショップ、「家出体験」などを通して、中高生達が夜の街に出る背景を想像し、気持ちに寄り添えるようになることを目的とした研修を始めました！一人ではなかなかできない家出体験や研修を通して、どんな声かけや支援が必要か、自分の役割・できることは何か、一緒に考えます。研修を修了された方を対象に、アウトリーチ活動へのボランティア募集情報をご案内します。



メディア掲載 (一部)

テレビ・ラジオ

2017年

- 11月 TBS サンデーモーニング
- 12月 朝日放送 伊藤史隆のOn-site RADIO

新聞

2017年

- 4月 東京新聞「あの人に迫る 自己責任にせず生の声を聞いて」
- 5月 山陽新聞「子どもが性の商品に。気づける大人が必要」
- 6月 信濃毎日新聞「性被害 検証手探り」
朝日新聞「性暴力も愛情と勘違い… いいセックスってなんだ？」
- 7月 しんぶん赤旗「子どもが幸せに生きられる社会に」
考道新聞「女子高生の裏社会 関係性の貧困とSNS」
- 8月 琉球新報
「性暴力の実態知って 中高生の声を届ける」
「少女たちの視点 そこに至る背景」
「少女たちの視線 話を聞いてくれた」
「私たちは『買われた』展」展示、少女の救いに」
- 9月 信濃毎日新聞「県『性被害防止』条例 子どものケア」
朝日新聞「『買われた』少女の声を聞いて」
中日新聞「売春被害 女性の声」
- 10月 朝日中高生新聞「少女たちの過酷な状況を知って」
- 11月 朝日新聞
「追い詰められた背景 目を向けて」
読売新聞
「子どもの性被害防止を」
「親子で話し合いルール作り」
毎日新聞「言葉の背景を見て」
しんぶん赤旗「街さまよう少女へ相談を発信して」
- 12月 東奥日報「伴走しつづける大人必要」
中日新聞「『買われた』少女たちの企画展」
朝日新聞「性的に見られて『嫌だな』、自分の権利が奪われるサイン」

2018年

- 1月 共同通信社「平成をあるく 居場所のない少女を支える 渋谷をさまよった過去」
(東奥日報、秋田さきがけ新聞、山形新聞、デイリー東北、北国新聞、福島民報、新潟日報、福井新聞、日本海新聞、山梨日日新聞、信濃毎日新聞、北日本新聞、茨城新聞、神奈川新聞、埼玉新聞、千葉日報、中部経済新聞、京都新聞、山陽新聞、山陰中央新報、山口新聞、高知新聞、中国新聞、徳島新聞、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、熊本日日新聞、宮崎日日新聞などに掲載)
- 2月 読売新聞「居場所を作り自立後押し」

雑誌

2017年

- 8月 婦人公論「JKビジネスに引き寄せられる少女たちの本音」(中央公論新社)
- 12月 THE BIG ISSUE325号「夜の街をさまよう少女たち。寄り添う大人を増やす支援者養成講座スタートへ」(ビッキイシュー日本)

2018年

- 2月 AERA「差別と暴力の根は同じ」(朝日新聞出版)

書籍

- 「私にとっての憲法」
(岩波書店編集部編・岩波書店)
ーⅡ 変えるべきは社会ー
- 「子どもの人権をまもるために」
(木村草太編・晶文社)
ー「第4章 10代の居場所」
- 「日本のフェミニズム since1886 性の戦い編」
(北原みのり編・河出書房新社)
ー「コラム『買われた』少女たちを支援する」

機関誌

2017年

- 4月 季刊社会運動426号「20年後、子どもたちの貧困問題 格差社会を終わらせよう!」(市民セクター政策機構)
- 5月 女性展望「性暴力に日本社会はどう向き合うか」(市川房江記念会)
- 6月 季刊現代警察153号「特集・女性と子どもを守る『元難民高校生が警察に望むこと』」(啓正社)
- 8月 住民と自治「孤立した少女を支援する -Colaboの取り組みから-」(自治体問題研究所)
- 10月 ニュースねざす「JKビジネスやガールズバーに向かう高校生たち」(神奈川県高等学校教育会館)
- 11月 広報しまだ233号「『普通化』する先入観 背景にある関係の貧困」(島田市)

2018年

- 1月 ちいさいなま「今、子どもたちに何が起きているか」(全国保健団体連絡会)

ウェブメディア

2017年

- 4月 ウェブちくま 桐野夏生さんと対談「女子高生が性を買われるということ」
- 11月 現代ビジネス「虐待、貧困、性暴力…夜の街をさまよう少女を支える5つの活動」



詳しくは下記サイトへ
ダウンロードや記事を読覧できるものあります

<http://www.colabo-official.net>

2017年度 会計報告

収支計算書 自：平成29年4月1日 至：平成30年3月31日 （単位：円）

I 経常収益

1. 受取会費		2,462,508
2. 受取寄付金	5,875,944	
難民高校生を贈ろうプロジェクト	36,000	
一時シェルター開設・運営	486,779	
中長期シェルター開設・運営	1,186,000	
難民支援	1,396,000	
巡回型バスによるアウトリーチ	5,804,482	14,785,205
3. 受取助成金		
公益財団法人日工組社会安全研究		
財団2017年度広域安全事業助成	2,000,000	
日本財団ソーシャルイノベーション		
支援制度	5,000,000	
公益財団法人お金をまわそう基金	156,550	7,156,550
4. 事業収益		
基礎的支援事業	441,910	
居場所づくり事業	2,052,905	
自立支援事業	500,000	
情報提供事業	3,364,301	
支援者養成事業	1,423,800	7,782,916
5. その他収益		
雑収益	94,788	
受取利息	208	94,996
経常収益計		32,282,175

II 経常費用

1. 事業費		
（1）人件費		
給与手当	9,536,823	
法定福利費	1,286,224	
	10,823,047	
（2）その他経費		
給食費	287,295	
材料費	249,021	
講師謝金	234,748	
諸謝金	309,200	
旅費交通費	1,832,416	
研修費	45,492	
地代家賃	1,720,444	
水道光熱費	285,938	
通信運搬費	402,579	
印刷製本費	16,652	
会議費	357,834	
消耗品費	60,696	
修繕費	2,181,000	
器具備品費	237,203	
租税公課	38,546	
支払手数料	198,100	
減価償却費	137,388	
雑費	1,251,556	
事業費合計	9,846,108	20,669,155
2. 管理費		
（1）人件費		
給与手当	1,446,318	
法定福利費	268,070	
	1,714,388	
（2）その他経費		
衛生費	2,000	
諸謝金	73,000	
旅費交通費	293,168	
福利厚生費	515,317	
地代家賃	1,132,416	
水道光熱費	63,297	
保険料	146,700	
通信運搬費	339,538	
印刷製本費	41,239	
新聞図書費	62,022	
会議費	84,128	
消耗品費	65,809	
諸会費	70,000	
租税公課	230,250	
法人税等	70,000	
支払手数料	35,258	
減価償却費	1,202,320	
雑費	120,580	
管理費合計	4,547,042	6,261,430
経常費用計		26,930,585

当期正味財産増加額	5,351,590
前期正味財産繰越額	25,390,331
次期繰越正味財産	30,741,921



高校の卒業式で

今年度は、Colaboとつながる難民の姉妹の高校卒業を支える特別寄付を募りました。彼女たちは幼い頃から保護者に連れられて、学校にも行かれないまま避難生活を送っていました。2011年に成田空港に到着し、難民認定申請を行い、仮放免許可を受けて日本で生活していましたが、難民認定申請が不許可処分となり、難民支援機関からの金銭的な支援が打ち切られてしまいました。高等裁判所に控訴をしながら生活することになりましたが、仮放免許可の身では働くこともできず、生活費と学校に通うためのお金がありません。そこで、姉妹は家族と離れてColaboのシェルターで生活し、高校卒業を目指すことになりました。7ヶ月間シェルターで生活し、2人とも無事に高校を卒業して帰国しました。

彼女たちが日本の高校卒業の学歴を持って帰ることができたのは、みなさんの支えがあったからです。帰国と言いますが、子どもたちは小中学生の頃から日本で育ち、教育を受け、友達をつくり、帰国の日まで日本で恋愛もしていました。「日本人より日本の文化や食が好き」と言い、日本で進学や就職することを希望していました。彼女たちは、Colaboとつながる人たちにたくさん笑顔と優しさ、励ましをくれました。これから待ち受けている困難は想像もつかないけれど、色々な人の力を借りて乗り越えられるよう、これからも彼女たちと繋がりたいと思います。難民の方々の人権が守られる社会を考えていくためにも、できることを続けたいと思います。

会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

サポーター会員

281
名

資金寄付延べ

200
名

プロジェクトへの寄付
中長期シェルター増設

281
名

プロジェクトへの寄付
夜間巡回バスによる
アウトリーチ

645
名

プロジェクトへの寄付
難民姉妹の高校卒業を
支える資金

38
名

プロジェクトへの寄付
『難民高校生』を贈ろう

10
名

18冊分

467
件

物品寄付

様々な形で活動を支えていただき、みなさまの想いと行動に心より感謝しています。

寒空の下、薄着で寒さをしのいでいた少女との出会いをきっかけに衣類の募集を開始、生理用品を買えずに祖母のオムツで代用している少女との出会いから生理用品を、新生活を始める少女のために家電や布団、中高校生用の下着や文房具、妊婦・ベ

ビー用品など様々なものを募らせていただきました。

必要としているものをすぐにご支援くださり、ありがとうございました。ご支援と一緒に送りいただいたメッセージは、少女にも伝えさせていただいています。少女の可能性を信じ支える仲間として、これからもよろしく願いいたします。



2016年度活動報告会にて。応援者の方々と。

♥ 助成金で支えていただきました！

●保護・自立支援及びシェルター運営

- ・公益財団法人日工組社会安全研究財団：広域安全事業助成 200万円
- ・公益財団法人お金をまわそう基金：156,550円

●夜間巡回バスによるアウトリーチ

- ・日本財団：ソーシャルイノベーター支援制度500万円

●アウトリーチ支援者養成講座の開発・実施（2016年度中に受取）

- ・草の根市民基金・ぐらん：都内草の根助成50万円
- ・中央ろうきん若者応援ファンド：200万円

♥ シェルターオーナーとして支えて下さった皆さま

2017年度、12名の方にシェルターオーナーとして18日分運営費を支えていただきました！

- 1日オーナー：塩崎 康子様、福田 アリスン様、LECRUBIER Francois様、奈須 りえ様、清水 涼様、鈴木 薫様、松川 真樹、小林 高義様、原口 チユキ様、大西 零士様
- 1.5日オーナー：中村 剛様
- 3日オーナー：福地 章子様

♥ 以下の物品をご寄付いただきました

- 書き損じハガキ、未使用切手：郵送費として使用します
- 図書カード、商品券、カタログギフト：少女へ贈る本や、物品購入に使用します
- テレフォンカード：緊急連絡用として少女に渡します
- 電子機器（iPhone、ノートパソコン等）：相談事業に使用します
- 制服、衣類、日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、入浴剤、メイク落としなど）：少女に贈ります
- 食品：困窮した少女に贈るほか、食事提供支援で使用します
- 農産物：お米や果物、お肉、野菜等の定期的なご支援も嬉しいです
- Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！：飲食物品、調理器具、掃除用品、家具、家電、寝具、書籍、文具など



化粧品や日用品



レトルト食品やみそ汁、パスタソースなど
便利で重宝します。

感謝は少女たちと日々を重ねることで、
お返しさせていただきます。

ご支援のお願い

Colaboの支援方法について

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。

サポーター会員や、シェルターオーナーになって活動継続のための仲間になってください！

サポーター会員	年会費／1口：6,000円 毎月のご寄付で継続して活動を支えていただく会員です。私たちの理念・活動に共感いただいた方、ご支援よろしく申し上げます。 ■会員特典 1. 日々の活動を伝えるColab通信をお届け（不定期） 2. 活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引
『難民高校生』を贈ろうプロジェクト	1口：2,000円 中高生や少年院に入っている少女たちに仁藤の本を贈っています。1口で1人の少女に届けることができます。
シェルターオーナー	1口：30,000円 1口で1日運営する費用がまかなえます。365日開設を目指し、支援を募っています。
活動資金の寄付	口座振り込み、またはクレジットカードでのお支払いが可能です。 （Colaboへのご寄付は税控除の対象となりませんが、「公益財団法人お金をまわそう基金」を通して支援いただくと、寄付金額の約4割の税控除が受けられます。基金のColaboのページからご寄付いただくと、約7割がColaboに届きます。）詳しくはHP「ご支援のお願い」をご覧ください。
食品、物品の寄付	随時必要な物をHPに掲載しています。送付先はお問い合わせください。
ほしいもののリストからの寄付	サイトに必要としている物品を掲載しています。Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。 http://goo.gl/24g9zt

会員申し込みやご寄付は、お礼の連絡や報告をさせていただくため、HPよりご連絡の上、下記口座へお振込みください。クレジットカードからのご寄付はHPをご確認ください。



ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行から）

[記号] 18180-2

[番号] 3692211

[名義] コラボ

ゆうちょ銀行（他金融機関から）

[店名] ハー八（ハチイチハチ）

[店番] 818

[口座] 普通 0369221

[名義] コラボ

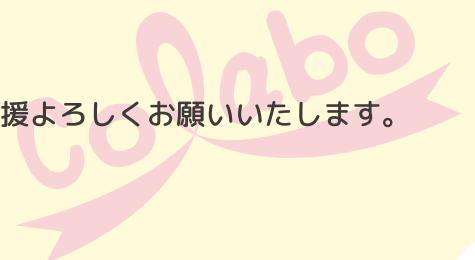
三菱UFJ銀行

渋谷中央支店

[普通] 0363448

[名義] イッパンシャダンハウジンコラボ

ご支援よろしくお願いいたします。



■ 団体概要

名称 一般社団法人Colabo

設立 2011年5月（2013年3月に法人格取得）

役員 代表理事：仁藤 夢乃

副代表理事：稲葉 隆久

理事：奥田 知志（牧師、NPO法人抱樸 理事長）

川村 百合（弁護士）

齋藤 百合子（明治学院大学准教授）

細金 和子（婦人保護施設慈愛寮 元施設長）

監事：打越さく良（弁護士）

村上龍氏
推薦!



2016年、
ちくま文庫から
文庫化され
ました!



難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を
過ごす“難民高校生”だった。
一家庭・学校のつながりを失い、渋谷
を彷徨っていた中高時代。やりたいこ
とも夢も失くし、学校を中退。妊娠、
中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。
私の周りには、そんな子がたくさんい
た。人生に絶望した私の前に現れた
のは、一人の講師だった—

英治出版 ￥1,500円(税別)

ちくま文庫 ￥780円(税別)



台湾でも
翻訳版が
出版されて
います!

女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地
域は安全だ」そう思っている大人に
こそ、読んでほしい。「女子高生」を
狙うJK産業で働く少女たちの身に
何が起きているのか。少女たちの
本音から、解決策を探る。

光文社新書

¥760円(税別)



会員になって 活動を支援してください!

年6000円(月500円)から継続的に
活動を応援していただくサポーター
を募集しています。私たちの理念・活
動にご共感いただいた方、ぜひご支
援よろしくお願いいたします。

●会員特典

- ①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け(不定期)
- ②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

『難民高校生』を 贈ろうプロジェクト

居場所がない、生きる希望がない、頼
れる人や相談できる人がいない、性暴
力を受けている、いじめ、虐待、ネグ
レクト、親や教員とすれ違いの日々…
そんな高校生たちに、本『難民高校
生』を贈りませんか?

- 1口: 2,000円で、1人の高校生に、『難民高校生』を届けられます! 本には、仁藤からのメッセージを入れ、高校生に贈らせていただきます。



シェルターオーナーに なりませんか?

虐待などを背景に少女が家に帰ること
ができない、家にいられないとき、
駆け込める場所として開設していま
す。シェルターは、みなさまからのご
寄付で運営しています。1口で1日の
運営費をまかなえます。オーナーとし
て、ご希望の方は報告書にお名前を
掲載させていただきます。ご支援よろ
しくお願いします。

- 1口: 30,000円…1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。365日開設を目指し、支援を募っています。

日々の活動や少女たちとの関わりを綴っています

イミダス連載コラム『バカなフリして生きるのやめた!』 <http://imidas.jp>

仁藤による毎月の連載や、著名人や専門家との対談、Colaboとつながる少女たちによる連載を掲載しています。ぜひ、ご覧ください!

Facebookページ <https://www.facebook.com/colabo.official>

代表ブログ <http://ameblo.jp/colabo-yumeno>



一般社団法人 Colabo

講演のご依頼、お問い合わせはこちらから

<http://www.colabo-official.net>

メール: info@colabo-official.net



スマホ・携帯はこちらから